



「カイロス」第46号 2011年 12月22日発行 清泉女学院中学高等学校

「自らを高めよ」の実現を目指して



校長 須田和男

学校の新たな発展に向け四月から「自らを高めよ」という努力目標を掲げ、その取り組みをしてきました。

生徒一人一人が持っている個性や能力をより高めたいとの願いから、まず「Step up Time」（放課後の二十分学習）を新設し実施してきました。「継続は力なり」です。今後とも内容の改善を図りながら努力を続けてまいります。高校生を対象とした夏期講座では、その内容を具体的な進路先を意識した講座名にして実施してみました。生徒たちも目的意識を持って講座に臨めたのではないかと考えています。

また初めての試みとして中学二年生と三年生を対象に、それぞれ二日、四日の日程によりネイティブ教師による英語漬け研修「イングリッシュキャンプ」を実施しました。日本語を使わないという前提で、アクティビティを多く取り入れた内容を企画し、実施しました。参加した生徒たちからは、ネイティブ教師とのコ



ミュニケーションの機会が数段と増え、参加してよかったという評価を多く

得ることができました。この試みについては、本校の英語教育の新たな特色の一つとなるよう工夫・改善をして、来年度以降も実施したいと考えています。（本年度の内容は本誌四ページ参照）

さらに、「挨拶の励行」ということについても教職員が心を合わせて取り組んできています。これまで、生徒たちの挨拶の仕方を見ていると、友達やクラブ内における挨拶はきわめて良く行われていますが、直接に教わっていない先生、職員や来校者への挨拶となると、満足できる状態ではないと感じていました。そこで、挨拶の意味や大切さを改めて教職員が共通認識し、朝礼、学級指導、倫理の時間等の様々な機会を通して指導を続けてきました。もともと素質のある生徒ですから理解と実践は早く、最近では自然と挨拶を交わす雰囲気が出てき、学校が一段と明るくなってきたと感じています。そして未だ完ぺきとは言えませんが保護者や来校者からお褒めの言葉をいただくようになりました。「雨傘を斜めにしてすれ違う」という江戸仕草があります。この仕草はすれ違う人への配慮、思いやりであり、周りに対する「目配り、気配り、心配り」

の心があって生まれたものだと考えます。昨今、電車に乗り込むやいなやゲームに夢中になり、周りを気にかけない光景を見かけます。これでは江戸仕草を期待できそうもありません。実は、挨拶を交わすということの根底には、この江戸仕草のように人が周りを気にかける、即ち、すれ違う人が先生なのか、来校者なのかという「目配り、気配り、心配り」の心の有無が大切であり、それには日ごろの躾や習慣が深くかかわっていると思います。このように挨拶はささやかな行為であります。実は大変大切なことだと思っています。人間関係が希薄になりつつあると言われる今日、あいさつや会釈を交わすことについてもしっかりと指導を続けたいと考えています。各ご家庭においてもご協力お願いいたします。

..... INSIDE

- ② 被災地を訪れて
- ③ 玉縄城築城500年に向けた講演会開催
- ④ English Camp
- ⑤ クラブ紹介 料理部
- ⑥ 演劇部 全国大会報告
- ⑦ 学生生活進行形 59期 内田 朱音さん
- ⑧ 短信
- ⑧ 中学音楽部 全国大会で金賞 体育祭

